

令和3年7月（第4回）教育研究評議会議事要旨

日 時 令和3年7月21日（水）13：31～14：36
場 所 第一会議室（ウェブ会議システム「Microsoft Teams」を併用）
出席者 37 / 37
欠席者 三村教育学研究科長（代理出席：西山同副研究科長）

○ 前回議事要旨の確認

令和3年6月開催（第3回）の議事要旨について、原案のとおり確認された。

○ 議事

1 審議事項

(1) 第4期中期目標・中期計画の素案等について

高橋理事から、資料1に基づき、標記素案及びこれに係る評価指標に関する事項を取りまとめたものについて項目ごとに担当理事から説明した後に意見を伺い、必要な修正等をした上で7月末に文部科学省に提出する予定であること、今後、文部科学省との調整を経て国立大学法人評価委員会の審議後に見直しの要請等があれば対応し、来年3月に文部科学省の認可をもって確定する予定となっている旨説明があった。続いて、各理事から、「評価指標に関する調書」に基づき、「①選択した中期目標大綱番号」ごとに、「②中期目標（素案）」、「③中期計画（素案）」、「④検証可能な評価指標」及び「⑤評価指標の設定理由」の概要についてそれぞれ説明があり、特に意見等は出されなかった。また、意見等がある場合は連絡願うこととし、字句等の修正については、一任願うこととなった。

2 報告事項

(1) 第3期中期目標期間（4年目終了時評価）に係る業務の実績に関する評価結果について

伊藤評価センター長から、資料2に基づき、項目別評価の判定結果及び「改善すべき点」として大学院教育の国際化に係る状況及び専門職学位課程の学生定員未充足が指摘がされていることについて報告があった。また、今後中期目標期間評価（最終）が実施される予定となっており、本年度は中期目標・中期計画期間の最終年度であることから、「改善すべき点」で指摘を受けた事項に対応するとともに、指摘を受けた項目以外についても計画を着実に実施するよう協力依頼があった。

(2) 「ジョブ型研究インターンシップ推進協議会」への入会について

舟橋理事から、資料3に基づき、文部科学省及び（一社）日本経済団体連合会から、標記協議会の設立及び標記協議会への入会案内があり、2021年度後期シーズンから博士課程学生（当面は自然科学系）を対象として先行的・試行的に開始予定とされていること、並びに標記協議会の概要及び活動のスケジュール等について説明があり、大学全体として入会することとした旨報告があった。

(3) 寄付講座の設置について

那須理事から、資料4に基づき、令和3年10月1日付けで大学院環境生命科学研究科に寄付講座「木質材料学講座」を設置することとしたこと、及びその概要について報告があった。

(4) 「研究准教授」の称号を付与した教員について

那須理事から、資料5に基づき、「研究准教授」の称号をその認定要件に該当していると認定した1名の者に付与することとした旨報告があった。

3 その他

(1) 部局長適任候補者の推薦方法について

学長から、昨年度から複数人の部局長適任候補者（以下「候補者」という。）の推薦をお願いしているが、少数の部局しか複数人の推薦が行われていないことについて、部局により選考の方法も様々であることから、その改善案について意見を伺いたい旨提案があり、続いて、高橋理事から、資料6に基づき、候補者の選考手続きが多様であり事務手続きが多くその選考に時間を費やしていることも課題と考えており、部局長の役割を改めて確認いただき選考の方法を全学的に一本化するとともに、複数の適任候補者の推薦を義務化する方向で検討を進めており、部局マネジメント改革のプロジェクトの件と併せて意見交換しながら最終的に改善策を出したいと考えている旨説明があった。趣旨としては、①将来の大学経営や部局運営を担う人材を育成する観点から、候補者を複数選出することをきっかけにそれぞれが大学のビジョンを理解し、部局が持つ強みや特色を最大限に引き出す方策を検討することを通し責任を持って部局運営を行うことができる能力を伸ばす機会であること、②候補者は部局長選考会議で自らの所信を述べ意見交換をすることで相互理解を深めることができることであることの説明と改正内容の概略について説明があった。なお、当該案に対し大学経営戦略会議では、①推薦人の数は2人とするのは少ないのではないかと、②若手に興味を持ってもらうための工夫として推薦人のうち1人は准教授以下の若手としてはどうか、③部局のサイズによって複数の候補者は出せないのではないかと、④現部局の執行部が候補者を推薦する際に次の時代を担う人を推薦することとしてもいいのではないかと、⑤そこからいいアイデアも出てくるかもしれないのではないかと、⑥勝ち負けではなく部局長としてのありたい姿を考えていただく機会にしてはどうかとの意見があった旨補足説明があった。

これに対し、五福ヘルスシステム統合科学研究科長から、「意向投票結果を付してもいいし、付さなくてもいい」という案について、意向投票結果を付した場合にどういう取扱いになるか、について質問があり、高橋理事から、それを大きな参考にするということではなく、意向投票結果を見て部局の考えであるということは検討の1つとして上がるものとする旨回答があり、続いて、五福ヘルスシステム統合科学研究科長から、部局側からはある程度意向投票の結果は、所信表明された内容に対する賛否を示す指標であるため、それを考慮の上最終的な判断をお願いしたい旨発言があり、

高橋理事から、学長のリーダーシップとビジョンの下でどれだけその所信がお互いの良さを出し合えるかということであり、そのためには情報を共有することがまず大事である旨発言があった。

鶴田自然科学研究科長から、「複数の立候補者がいない場合は、現部局の執行部が候補者を推薦する」という案について、立候補者がいないということを想定した場合、ここに該当することとなるかについて質問があり、高橋理事から、立候補者がいないような状況を作り出すべきではないと考えており、日ごろから情報を共有して本学や部局の将来像を考えていなければ、急に部局長にはなれないのではないか、部局長の任務は大変であるが、将来の私たちの道筋を作っていくんだという前向きな気持ちでやりたいという方を育ててほしい旨発言があった。

また、学長から、人材育成の観点及び情報共有の観点から本年5月より副部局長の方にも本会議のオブザーバーとして参加願っている旨発言があり、意見をいただいて検討していきたい旨発言があった。

(2) 次回開催日について

今回は、9月15日（水）13時30分から開催することとなった。

以上